

布施の心

24

【高田勇知事との出会い】

機中で偶然知り合ったと婦人の手引きで、図らずもその後すぐに高田知事の奥様にお会いできることになった。場所は、知事公舎だった。

調印式で県知事にお目にかかるのを楽しみにしていたところ、まさか、調印式に先立つて、その方の奥様に会えるとは！紹介してくれたご婦人は綿谷さんという方が、幸運の女神のようだった。

知事公舎で三人で雑談を交わしていると、まもなく知事が帰ってきた。奥様が、「主人を紹介するわ」と言つて高田知事に引き合わせてくれた。

知事の第一声は、「本多さんとおっしゃつたですね。よろしく」そして、笑いながら付け加えた。「家内と友だちになるとたいへんですよ。結構強気な女だからね」

会話を交わすうちに皆はすっかり打ち解けて、最後には知事から、「本多さん、今度また遊びにいらつしゃい」とお説の言葉をいただいた。

その言葉に甘えて、その後たびたびお宅を訪問したり、食事を一緒にさせていただくようになつた。

知事は、賑やかな場がお好きで、博識で話も面白かったが、アルコールは一滴も召し上がらなかつた。お湯気に「ランティ」をほんの一滴垂らして、「うまいな」とおどけることはあつたが。

奥様からは、「本多さん、私のほうが主人より先よね。知り合つたのは」と、知事の前で冗談混じりに自慢する一幕もあり、面白い思いをしたことがある。

高田さん（知事退任後も「知事さま」とお呼びした）は知事退任後、長崎空港ビルディングの社長になられた。ご挨拶で長崎空港の社長室を訪ねると、「東京の行き帰りには顔を出せよ」と、釘を刺された。



2023年3月本多産業株式会社は
設立50周年を迎えました。

本多産業株式会社
【本社】神奈川県横浜市戸塚区戸塚町3814
TEL:045-869-1133
【長崎工場】長崎県雲仙市吾妻町布江名677
TEL:0957-38-3520

「はい、いは関所のような所ですからね」と、冗談で返した。

高田さんは、私が東京の行き帰りに社長室を訪ねてくるのを楽しみにしてくれていたのだ。多く功績を残して、誰からも惜しまれながら、九十二歳で大往生した。

高田勇元知事は二〇一八年九月、多くの功績を残して、盛大なお別れ会の会場の席で、私はひとりしんみり故人を偲んでいた。その時、私を見つけた奥様が、「本多さん、そんなところにいらないで、こっちに来なさいよ」と、自分の席の近くへと誘ってくれた。

思い起こせば、ほとんど知人のいない長崎で、「県のトップを知つていて」ということは、私にどれほど安心感と充実感を与えてくれたことか。

そして、見ず知らずの私を家族のように扱つてくれたおおらかな高田知事と奥様にはどれほど感謝してもしきれない。

高田さんは、勲一等瑞宝章をはじめ、たくさんの勲章をもらわれたが、私にとっては、高田さんご夫妻と親しい付き合いをさせていただいたことが、何よりの人生の勲章だ。

〈趣味、歌〉

歌は、長い人生でいつも私のそばにいた。

苦しい時、悲しい時、よく流行歌に耳を傾けたり、ひとりアカペラで歌つたものだ。

三十代の後半になってからは、お客様と酒席と共にすることも多くなり、よくカラオケを歌つようになつた。

カラオケは、最初はテープと歌詞カードだったが、一九九〇年頃には映像付きカラオケが出現した。そして、やがて通信カラオケになり、今に至っている。

私は、自慢ではないが、酒屋の息子だけに酒は人並み以上だが、歌はなかなか上手くならないままだ。それでも「歌は世に連れ、世は歌に連れ」、歌はそのときときの思い出を連れてきてくれるるので、懐かしく、また樂しく、今も趣味にしている。

（次回4月19日掲載予定）

本多
克也
（読み字も）

文・徳永 耕一